### 3.3 点検項目と点検方法の検討

中部森林管理局および四国森林管理局のデータを 200 点程度、サンプル的に点検した結果、抽出された異常値はほぼゼロであった。そのため、貸与された全点(中部森林管理局約 23 万点、四国森林管理局約 12 万点)について異常値を確認し、パターン化し整理した。(図 3.3-1)。

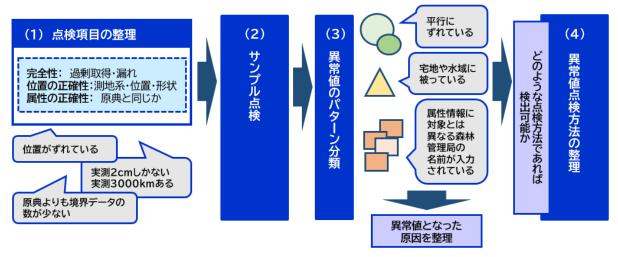


図 3.3-1 点検項目と点検方法の検討イメージ

整理の結果、境界点の異常値は「1点だけ離れる」「ブロック単位のずれ」「形状の変形」「任意座標」「その他(座標値入力間違い、海上に境界点がある等)」の5パターンに分類された。異常値の例のキャプチャは全てQGIS(バージョン3)で作成した。

また、分類された異常値を検出する点検方法を、次のとおり整理した(表 3.3-1)。

状況	点検内容
1点だけ離れる	国有林野の面データから任意の距離離れている境界点を抽出
ブロック単位のずれ	国有林野の面データから任意の距離離れている境界点を抽出
	し、民地との重複や林相・地形等を確認
形状の変形	国有林野の面データから任意の距離離れている境界点を抽出
	し、民地との重複や林相・地形等を確認
座標値入力/座標系間違い	広域を表示して対象範囲外にデータが存在しないか確認
海上に境界点がある	広域を表示して海域にデータが存在しないか確認

表 3.3-1 異常値を検出する点検方法の整理

# 3.3.1 1点だけ離れる例

1点だけ離れるパターンを、目視確認および、国有林野データの外縁  $15 \,\mathrm{m}$  範囲外を QGIS の操作で抽出した点を確認した(図 3.3-2)。

具体的な手順は、国有林やデータの外縁 (ライン) に対し 15 m のバッファリングを行い、これに含まれない境界点を異常値候補として抽出した上で、それらを全点目視にて確認した。

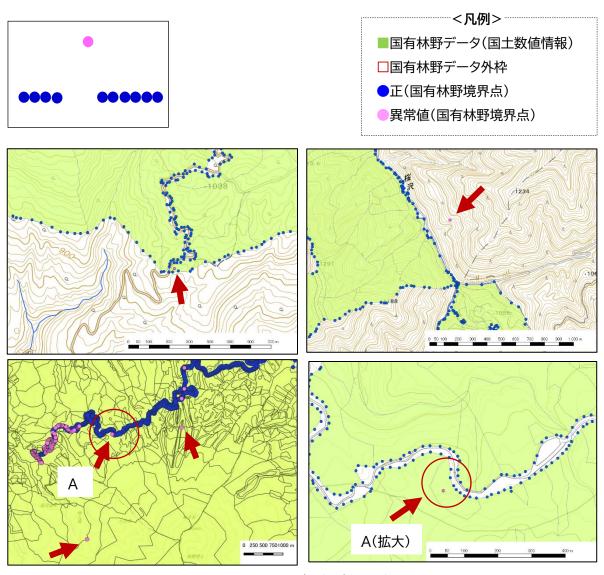


図 3.3-2 1点だけ離れる例

# 3.3.2 ブロック単位のずれの例

ブロック単位でずれるパターンを、目視確認および、前項と同様、国有林野データの外縁 15 m 範囲外を QGIS の操作で抽出したものを参考に確認した(図 3.3-3)。

当該異常値を検出するための方法として国有林野の面データから任意の距離離れている境界点をQGISの操作で抽出し、抽出した境界点を林相・地形・地物等の情報を重ね合わせて内容を確認する。情報を重ね合わせて確認するのは、必ずしも国有林野データが正とは限らないためである。

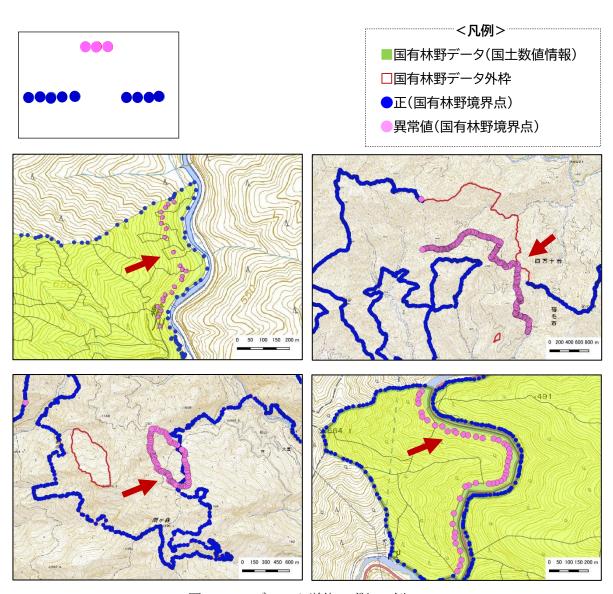


図 3.3-3 ブロック単位のずれの例

## 3.3.3 形状の変形の例

国有林野データと形状が異なるパターンを目視確認および、前項と同様、国有林野データの外縁 15 m 範囲外を QGIS の操作で抽出したものを参考に確認した(図 3.3-4)。

当該異常値を検出するための方法として国有林野の面データから任意の距離離れている境界点をQGISの操作で抽出し、抽出した境界点を林相・地形・地物等の情報を重ね合わせて内容を確認することが考えられる。情報を重ね合わせて確認するのは、必ずしも国有林野データが正とは限らないためである。

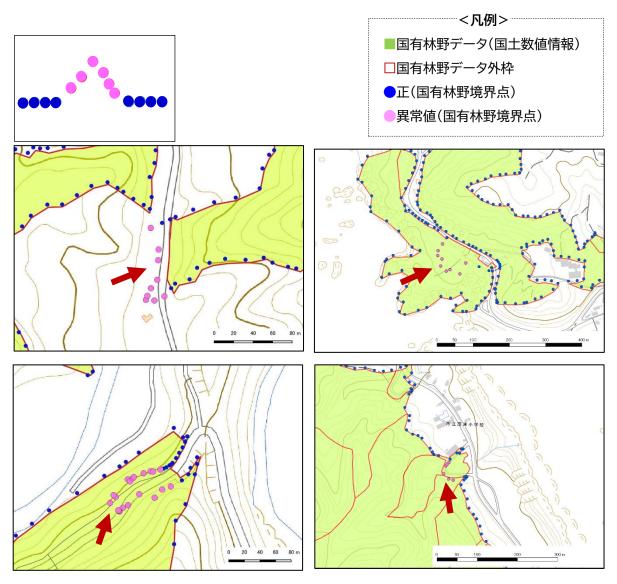


図 3.3-4 形状変形の例

## 3.3.4 任意座標の例

エクセルで座標系が「地域座標」となっているものを確認した(図 3.3-5)。

当該異常値を検出するための方法として、エクセル上で座標系の記載を確認、座標値の 桁数を確認、または国有林野データの外縁 15 m 範囲外を QGIS の操作で抽出したものを参 考に確認することが考えられる。

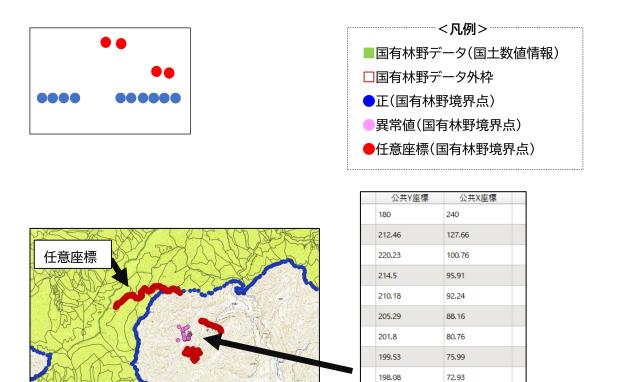


図 3.3-5 任意座標の例

公共座標に値が入力されているが、

任意座標である例

#### 3.3.5 その他の例

3.3.1~3.3.4 以外について、目視で確認した(図 3.3-6、図 3.3-7)。

当該異常値を検出するための方法として、広域を表示して対象範囲外や海域にデータが存在しないか確認することや、エクセルで水平距離の開きが100m以上あるものを確認することが考えられる。

● 入力間違い/座標系間違いの例

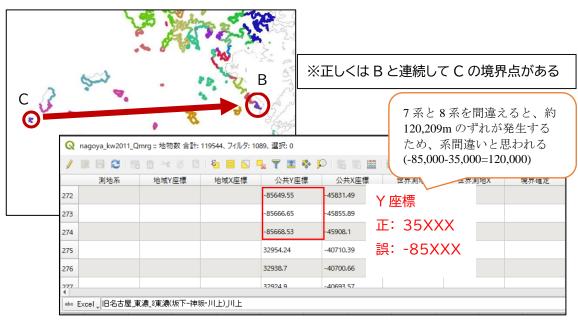


図 3.3-6 座標値入力を間違えている例

#### ● 海上に境界点がある例

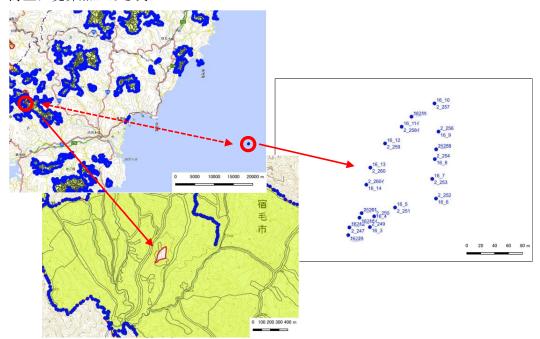


図 3.3-7 海上に境界点が落ちている例